

文教大学情報学部 社会調査Ⅲ 研究報告

状況別のカラオケスタイル

2014年1月

文教大学情報学部広報学科3年

B1P11146 山岸 ゆり亜

文教大学情報学部 社会調査Ⅲ 研究報告
状況別のカラオケスタイル

情報学部広報学科 3年 山岸ゆり亜

目次

第一章 調査研究の概要

1.1 調査研究の目的と背景

1.2 調査に関連する状況

1.3 調査研究の方法

1.4 成果の概要

第二章

2.1 調査回答者の概要

2.2 学生のカラオケ利用状況

2.3 メンバーで変化するカラオケのコミュニケーション

2.4 カラオケに求めるメリットとコミュニケーション

第三章 まとめと今後の課題

3.1 まとめ

3.2 今後の課題

参考文献リスト

資料 単純集計結果

第1章 調査研究の概要

1.1 調査の目的と背景

「状況別のカラオケスタイル」

誰もが一度は言ったことがあるであろう「カラオケ」。日本で多くの人に親しまれている。最近では、一人カラオケという言葉も生まれ、カラオケボックスの使い方に変化が見られる。友達と行くカラオケ・付き合いで行くカラオケ・一人で行くカラオケなど、利用の仕方様々だ。カラオケへ行くにあたって、一番の目的は「歌う」ことである。しかし最近カラオケの利用の仕方が多様化してきている。仲の良い友達だけで行くだけでなく、まだ相手のことをよく知らない段階で行くこともあるだろう。カラオケボックスというプライベート空間で、私たちは一人であるいは他の人と歌い、同じ時間を過ごす。そんな状況の違いの中で、私たちがカラオケで得られるメリットは何なのだろうか。誰とカラオケに行くかにより、私たちの行動やコミュニケーションは変化するのだろうか。カラオケに求めているもの・個人の好み・コミュニケーション能力調査したうえで、カラオケでの行動・メリットの違いを調査したい。

1.2 調査に関連する動向

(1) 日本の歌唱文化とは

歌唱文化には共同体の個性が表れる。ビクター民謡・舞踊連盟理事長の田畑氏によると「もともと民謡というのは、仕事（農作業や漁など）をする時にみんなの気持ちを一つにするための掛け声みたいなものから始まっている。日本人は日常的に歌っていた。歌は何よりもまず自分で歌って楽しむもの。それがいつの間にか大衆は聞き手に回っていた。歌がプロの手に渡ったからだ。そんな時、「カラオケ」が現れた。日本人はそこで歌う楽しみを思い出す。夜の盛り場で束の間の憩いにふけりつつ、歌で自己主張するようになった。日本を考えると、集団主義なのになぜ合唱にならず、独唱・陶醉型になるのか。その理由を考える際に、ともにカラオケに出かける集団が、会社の同僚や学校のサークルのグループとしてすでに一個の集団を形成しているものだったことを忘れるわけにはゆかない。その小さいながらもすでに出来上がっている集団の中で、曲の選択の好み・歌い方の上手・下手といういわばわずかな違いが「個人」の能力として披露される」。

この知見から、「カラオケ」というものがただの娯楽としてではなく、「社会形成としてのカラオケの役割」というものが浮かび上がってくるだろう。したがって、曲の選択の好み・歌い方の上手・下手というわずかな違いが「個人」の能力として披露されるカラオケで、カラオケのメリットや満足度が変わってくることは大きな可能性を秘めているのではないかと思う。

(2) カラオケに関する調査文献

調査する「2003年度カラオケ白書」(全国カラオケ事業者協会)によると、カラオケボックスの利用動機のうち、第一位は「自分が歌うのが好きだから」(59.9%)、第二位は「気晴らしやストレス解消のため」(49.2%)第三位は「家族や仲間と一緒に楽しむため」(45.7%)となっている。このうち第二位の「気晴らしやストレス解消」を挙げている人が最も多いのは、30代女性と20～30代女性である。若いといえば若く、金銭的にも時間的にも自由がきく世代だ。もっと若い10代になると、「歌うのが好きだから」という、幾分お気楽な動機が第一位を占める。

また、カラオケに行く人数の調査で、男性は5人以上が39.6%と一番多く、二番目に4人の35.8%、三番目に3人の17.0%、一番少ない結果となったのが2人の7.5%である。一方、女性は2人と答えた人が34.8%と一番多く、二番目に5人以上の30.4%。三番目に4人の26.1%、一番少なかったのは3人の8.7%である。

この結果から、男女でカラオケボックスの利用の仕方が大きく違うことが推測できる。男性は大人数でカラオケに行くことを好み、女性は少人数、特に2人きりで行くことを好む。

また、カラオケに行く相手に関する調査で、大半を占めるのが「大学の友達」で69.7%、故郷の友達が次いで54.5%、サークル友達が48.5%、バイト仲間が21.2%、家族親戚が12.1%、恋人が11.1%という結果であった。個人的な仲良しグループの「大学の友達」「故郷の友人」が大変であるが、社会的なグループであるサークルの友人・バイト仲間とカラオケに行く学生も多い。カラオケのメンバー別の満足度の調査でも、人数の偏りが大差なく調査集計できるのではないかと思う。

カラオケが好きか嫌いかという調査データで「好き」と答えた人が80.8%と圧倒的、「いいえ」と答えた人が19.2%と劣勢だった。このことから、学生もカラオケによって何らかの「満足・メリット」を得ていると考えられる。

カラオケに「暗黙のルール」があると思うかという問いに関しては、「ある」と回答し多きが57.6%で一番多い。次いで「どちらともいえない」と答えた29.3%、ないと答えた人はたったの13.1%であった。このことから、カラオケは個人が好きで曲をただ歌うだけではなく、気を遣わなければいけない場面があるということがわかる。つまり「歌うことが好きだから」という理由でカラオケに行くにしても、カラオケは他者との関係性が重要だといえるだろう。日常的な生活にも、気を遣わなくてはならない人・気を遣わなくてもいい人がいる。カラオケでも、“誰”とカラオケに行くかによって、ルールを守らなくてはいいか、気を遣わなくてはいいか等が変わってくるはずだ。

最近はやりの「ひとりカラオケ」にも注目したい。その名の通り、ひとりでカラオケをする行為を指す「ひとカラ」。その経験率や関心を探るべく、20代から40代のネットユーザーに調査を実施し、555名(男性302名、女性253名)の回答を集計した。カラオケ店にひとりカラオケをしに行ったことはありますか?という設問に対し、男性で「ある」と答

えた人は10.9%、女性は少し多めの16.6%だった。20代だけで見ると、23.2%の人が「ある」と回答しており、30代40代よりも格段に「ひとりカラオケ」が浸透しているようだ。さらに、「ひとりカラオケに行く目的」を問う設問で、20代では「ストレス発散」と答える人が34.1%と最も多かった。次いで「練習」と答えた人が25.0%、「歌うのを楽しむ」18.2%、「マニアックな歌を歌う」が15.9%だった。男女で比較するとあまり有意な差は見られなかったが、「ストレス発散」と答えた人が、男性21.2%だったのに対し女性は28.6%とやや男性より多めであった。

このことから、友達と行く時のカラオケとは違うメリットや満足があることが分かる。特にこの結果で興味深いのは、「練習」と答えた人が「ストレス発散」と答えた人より多数派であることだ。周りの目を気にせず歌いたいというより、みんなでカラオケに行ったときにうまく歌うための「一人カラオケ」という風にとらえる人が多いということが分かる。みんなでカラオケに行った時も“人の目”を気にしないのであれば、わざわざ一人でカラオケに行って練習しなくてもいいはずだ。練習するということは、「上手に歌い、周りから好印象を持たれたい」「下手な歌を歌って、悪い印象を持たれたくない」という気持ちがあるからだろう。これは自分に対してだけではなく、他者のカラオケに対しても「歌の上手い人は印象が良い」「歌の下手な人は印象が悪い」と感じている人が多いということではないか。慣れ親しんだ友人だけのカラオケなら、歌が上手でも少し下手でもあまり気にしなくてもいいかもしれない。しかし、飲み会の2次回やサークルのみんなで行く場合は、仲の良い人たちばかりがいるとは限らない。メンバーによってリラックスして歌えることもある。上手に歌おう・盛り上げようという度合いは変わってくるだろう。当然、行くメンバーによってカラオケのメリットや満足度は変わってくるはずだ。その人のその後の印象を付ける重要な場であるということも言えるだろう。

朝日大学マーケティング研究所のカラオケBOXにおける若者行動と意識に関するマーケティングデータによれば、高校生・大学生にとってカラオケは遊びの定番であるという。カラオケかボーリングのどちらかが選択されることが多いが、「ボーリングをした後にカラオケ」という場合もある。なかでも、カラオケは重要な位置付けにあり、高校生では、遊びの6割程度、大学生では、3割程度を占めている。

高校生、大学生がストレス発散できる場所として、カラオケボックスは最適のようだ。「歌って騒いでスカッとする場として、他に代用できるものはない」とまでいう高校生もいる。「自分の歌いたい曲を歌い放題歌って満足感が得られる場所はカラオケぐらいしかない」とも言う。歌っている間は自分のわがままを許してもらえ、そして、みんなが自分に注目してくれる、気分のよい空間である。

・カラオケのメリットについての調査結果

■気軽に楽しめて、飽きない遊び

ボーリングは、単調で、すぐに終わってしまうが、カラオケは自分たちの気分によって歌のジャンルを変えるなど、アレンジが出来て、長い時間いられる。また、ボーリングは服

装を考えなくてはならないが、カラオケは予定していなくても、その場で「行こう」と決められる。カラオケは、高校生、大学生にとって一番身近で、気軽に楽しめる遊びである。

■自分たちだけの密室

喫茶店では、あまり大きな声で話せないが、カラオケボックスでは、かなり大きな声で話しても他人に迷惑がかからない。個室、すなわち、自分たちだけの環境（密室）なので、人目を気にせず、安心しておしゃべりができる。疲れている時、ゆっくり話がしたい時はカフェに行く、先生のこと、お金のこと、進路のことなど、周りを気にせず、何でも気兼ねなく話ができるのはカラオケボックスである。特に、親しい友人と行くときには、プライベートが守られればよいが、覗かれるような部屋、顔が見える部屋では満足できない。高校生、大学生にとってカラオケボックスは、靴が脱げて、お菓子が食べられて、飲み物が飲める、誰にも邪魔されなくつろぎの場所であるといえる。

■小人数の場合は、自分が歌いたい曲を選曲

小人数でカラオケに行く場合は、自分が歌いたい曲を歌う。仲の良い友達同士では、皆が知らない曲でも気にせず気軽に歌える。「知らない曲だけどちょっと黙って聞いて！」といった感じである。また、新曲に挑戦することも多く、ちょっとした「ヘマ」でも笑ってごまかせる。

■最初は皆が知っている曲

どちらかという自分の歌に自信のない人は、最初から新曲を選ぶのは抵抗があるらしい。なるべく皆が知っている無難な曲から始める。歌い慣れている人でも、1曲目は場の雰囲気を考え、聴き慣れていて歌いやすいシングル曲を選択し、アルバム曲は極力避けている。

■一番重視しているのは友達との絆

小人数の場合、一番重視しているのは、仲の良い友達と楽しい雰囲気ですごすということで、そのためにお互いが気分よく歌える、「歌いやすさ」、「音のよさ」が必要なのである。上手く歌えたことに対する自己満足もあるが、友達に「上手だね」と一言言ってもらえることが嬉しい。機能の良し悪しはさほど関係ない。

■大人数の場合は盛り上がり重視

大人数の時は、モーニング娘。浜崎あゆみなどが定番。しんみりした曲や暗い曲は避け、とにかく「楽しい曲」「明るい曲」を選ぶ。皆が知っている曲、ウケ狙いの曲で、盛り上がるということが大前提である。満足感は、自分がうまく歌えることより、皆が盛り上がることで味える。自分の歌で、周りがはしゃいだり、踊ったりすると、「やった！」という感じである。したがって、キー、音程などはほとんど気にならない。また、そうした場で細かいことを気にしていれば仲間と調和がとれない。

■歌で自分のイメージ評価される

大人数の場合、気心が知れた人だけではないため、その場の歌だけで自分自身が評価されることを気にして、「上手く歌わなきゃ」という意識が強い。最初の出だしがいきなり

ズレたら「下手だな」と思われるので、「歌の入り」は特に意識している。したがって、「入り」がいつも聴いているCDと違うとかなり不安を感じる。また、選曲に関しても気を使っている。歌うチャンスが少ないので、あまり変な曲を歌うと、そういうイメージになってしまうから、皆が知っている無難な曲を、あらかじめ厳選している。皆が歌ってから、「これ系だったら大丈夫」というものを選択する人も多い。特に、その曲を歌っていた歌手がすでに音楽業界から消えてしまったような古い曲は避けている。

上記のデータから、行くメンバーや人数によって、カラオケの目的も変化してくるはずである。また、大人数で行った場合自分のイメージにも大きくかかわってくるというデータや意見から、それぞれでカラオケのメリット・満足度も違う方向になってくるはずだ。

例) 男性→大人数 とにかく弾ける 目的 (騒ぎたい)

女性→少人数 歌いながら、ゆったりお喋り

目的 ストレス発散しつつ、二人だけの空間でゆったりお喋りしたい。 等

1.3 調査研究の方法

(1) 進捗経緯

5～7 月 調査テーマ討論・決定

8～10 月 最終討論・調査票作成

10 月 調査票完成・学内での調査実施

11 月 単純集計結果報告

12 月 報告書作成

(2) 調査の概要

a. 調査の意図・仮説

- ・部活メンバーでのカラオケとのカラオケでは、行動に違いが出る
 - ・部活メンバーのカラオケ→大人数・周りに気を遣う
 - ・仲良しメンバーでのカラオケ→少人数・周りに気を遣わなくてよい。
- ・考え方の違いで、カラオケボックス内での行動も変化する。
 - ・「他者との交流」を重視→大人数のカラオケを好み、他者によく気を遣う。
 - ・「自分の好きな歌を歌う」ことを重視→少人数カラオケを好み、周りをあまり気にしない。
- ・一人カラオケをしたことのある人とない人では、カラオケに求めるメリットに違いがある。
- ・ひとりカラオケを好む人は、周囲にあまり気を遣わない。

b. 調査対象者と方法

調査対象：文教大学生

調査方法：紙面によるアンケートを授業内に実施

c. 主な質問項目

- ・ 個人のカラオケ利用状況
- ・ サークル・部活メンバーでのカラオケ利用状況
- ・ 仲の良い人（サークル・部活単位を除く）でのカラオケ利用状況
- ・ 一人カラオケの利用について
- ・ カラオケボックス内での行動について
- ・ 個人についての設問

d. 依頼数と回答数

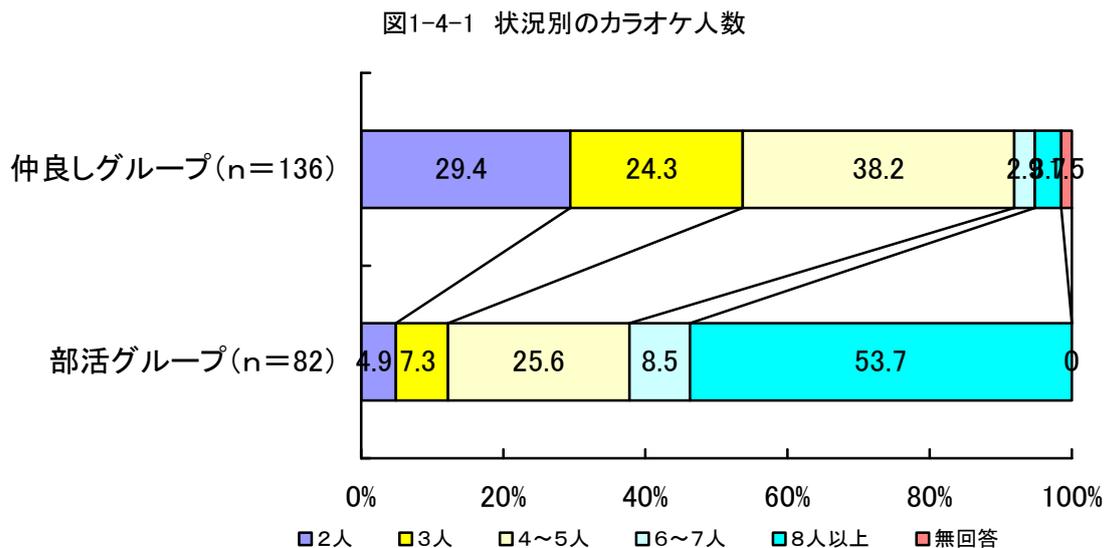
配布数：150 枚（社会学概論）

回収数：140 枚（社会学概論）

1.4 成果の概要

(1) 主な成果

a. 状況別のカラオケ利用人数

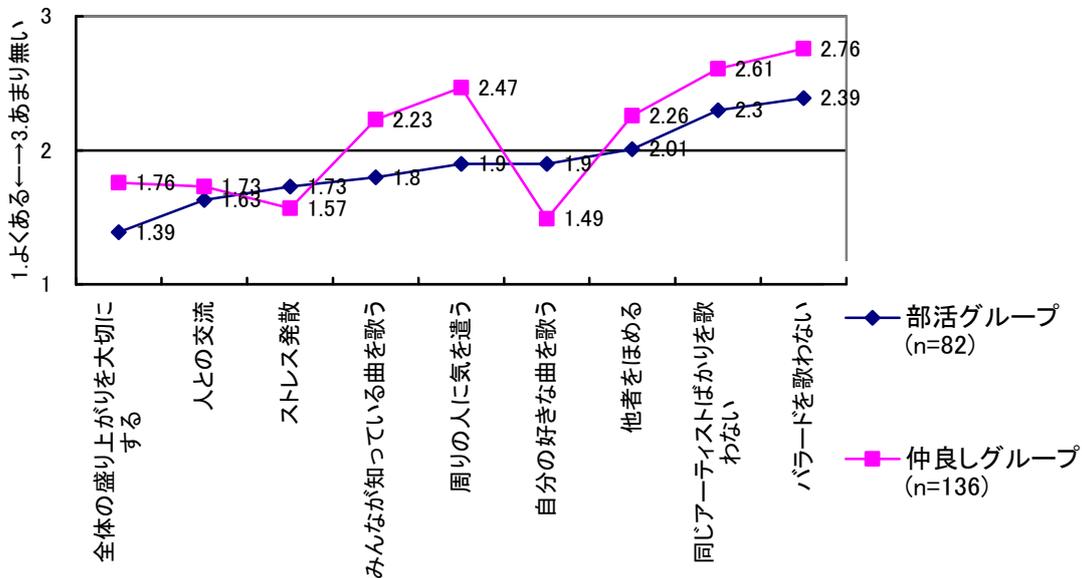


・両グループの差は下記である。

- ①「仲良しグループ」のカラオケでは、比較的少人数の場合が多い。「2人」「3人」「4～5人」がほぼ全体を占めている。
- ②「部活グループ」のカラオケでは、大人数の場合が圧倒的に多い。「8人以上」の大人数が過半数を占める結果となった。人数の違いから、カラオケ内でのメリットやコミュニケーションの仕方も変化してくると思われる。
- ③選択肢の中央値を使って各グループの平均値を推定すると、仲良しグループは 3.7 人、部活グループは 8.5 人である。部活グループは断然多い。

b. 状況別・カラオケでの行動とメリット

図1-4-2 状況別・カラオケでの行動差



・両グループの差は下記である。

①全般に部活グループの方が仲良しグループよりもさまざまな気遣いが強い。

「全体の盛り上がりを大切にする」「周りに気を遣う」「他者を褒める」「みんなの知っている曲を歌う」などの項目に大きな差がみられる。

②それに対し、仲良しグループのカラオケ場合、傾向が強いのは、「ストレス発散」「自分の好きな曲を歌う」である。全般に他者への気遣いが弱い結果となった。

(2) その他の成果

・考え方の違いからも、カラオケ内でのコミュニケーションや行動に差が見られることが分かった。

・一人カラオケの経験者は「自分の好きな曲を歌うこと」にメリットを感じている人が多い。

第2章 調査研究の成果

2.1 調査回答者の概要

調査対象者は、文教大学湘南校舎の学生140名で、「社会学概論」で紙面によるアンケートを実施した。なお回答標本は無作為抽出で作成していないために、母集団から見て偏りを感じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2-1-1から表2-1-2で確認しておく。

表2-2-1の学年別の分布では、1年生が割合の大部分を占めている。また、表2-1-2の性別の分布では男性57名・女性82名となっており、女性がやや多めである。これらの偏りは、回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である、しかし、クロス集計やグループの平均などの層化を行った集計では、影響は限定されると考えられる。

表2-1-1 学年

	1年生	2年生	3年生	4年生	無回答	計
回答者	83.6 (117名)	14.3 (20名)	1.4 (2名)	0.0 (0名)	0.7 (1名)	100.0 (140名)
情報学部 学生	25.1 (490)	25.1 (492)	22.0 (430)	27.8 (544)	— (—)	100.0 (1956)

(注) 母集団は湘南キャンパス2013.10 末時点である。

表2-1-2 性別

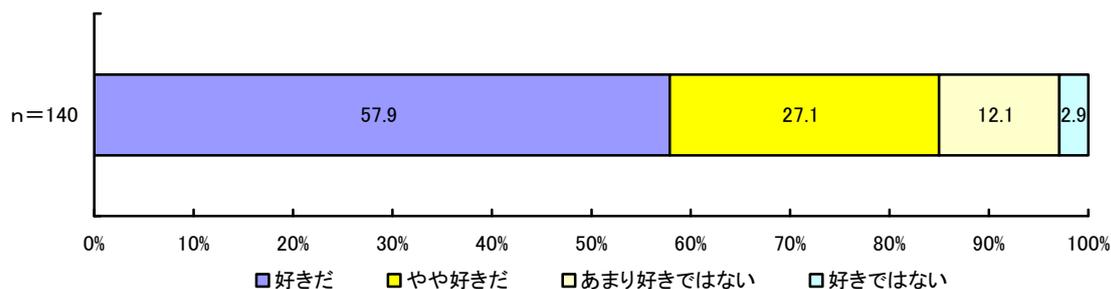
	男性	女性	無回答	計
回答者	40.7 (57名)	58.6 (82名)	0.7 (1名)	100.0 (140名)
情報学部 学生	66.0 (1291)	34.0 (665)	— (—)	22.0 (430)

(注) 母集団は湘南キャンパス2013.10 末時点である。

2.2 学生のカラオケ利用状況

(1) カラオケの好き嫌い

図2-2-1 カラオケの好き嫌い



カラオケの好き嫌いを示した結果が、図 2-2-1 である。「好きだ」と回答した人が一番多く、全体に見ても「あまり好きではない」「好きではない」と回答した人は少数派であった。約 58%の人が「カラオケが好き」、約 27%の人が「やや好きだ」、約 12%が「あまり好きではない」、約 3%が好きではないと回答した。

(2) 学生のカラオケ事情

図2-2-2 カラオケに行く頻度

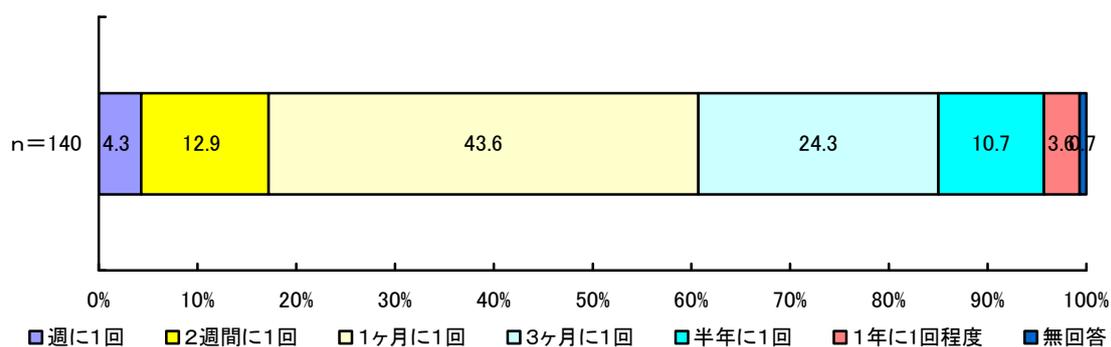


図 2-2-2 ではカラオケに行く頻度を示した。ほとんどの人が定期的にからオケに行っていることがわかる。「1ヶ月に1回」と回答した人が約 44%と一番多い結果となった。次いで「3ヶ月に1回」が 24%、「週に1回」「2週間に1回」と回答したカラオケのヘビーユーザーは全体の約 17%、「半年に1回」「年に1回」と回答したのは全体の 1 割程度であった。

図2-2-3 カラオケに行く相手(n=140)

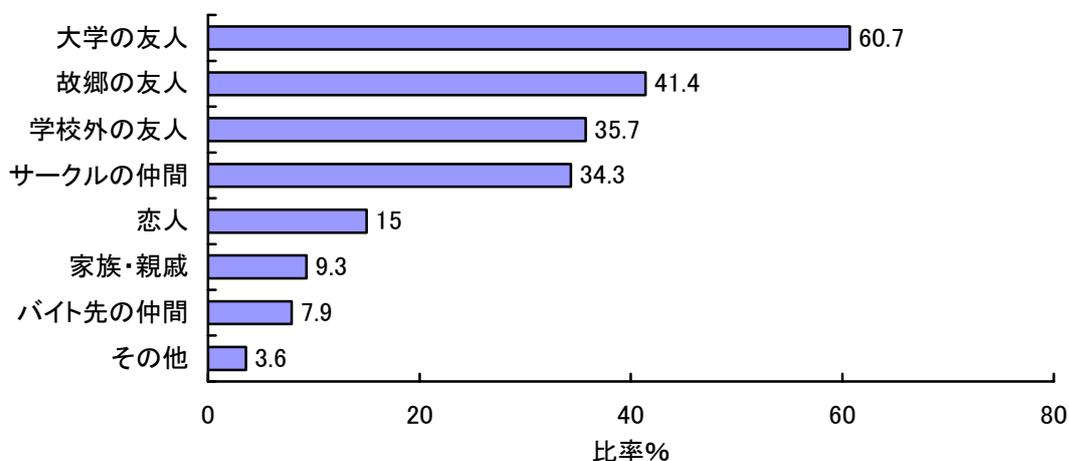


図 2-2-3 では、主に誰とカラオケに行くかを複数回答で調査した。一番多かったのは「大学の友人」で約 61%、次いで「故郷の友人」で約 41%、「学校外の友人」「サークル・の仲間」はどちらも約 35%と言う結果となった。「恋人」「家族・親戚」「バイト先の仲間」は少数派であった。

図2-2-4 カラオケの人数

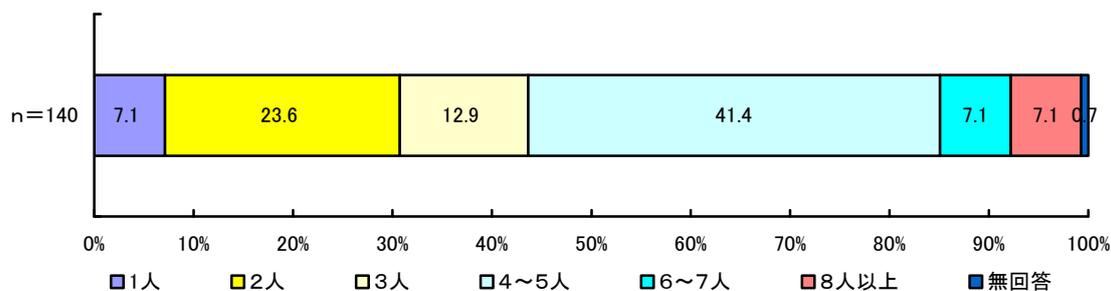
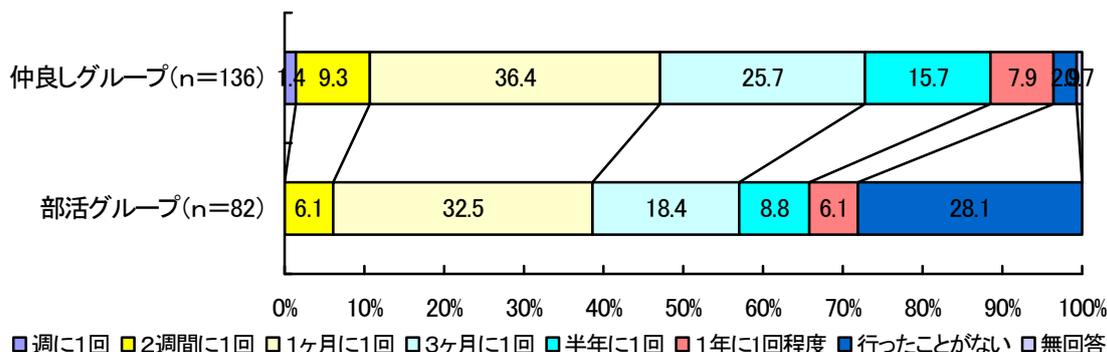


図 2-2-4 の何人とカラオケに行くかという問いに対し、一番多かった回答は「4~5人」で約 41%であった。次いで「2人」の約 24%、「3人」と答えた人は案外少なく、約 13%に留まった。「1人」「6人~7人」「8人以上」と回答した人は少数派でそれぞれ約 7%と言う結果になった。

2.3 メンバーで変化するカラオケのコミュニケーション

(1) 状況別のカラオケ利用頻度

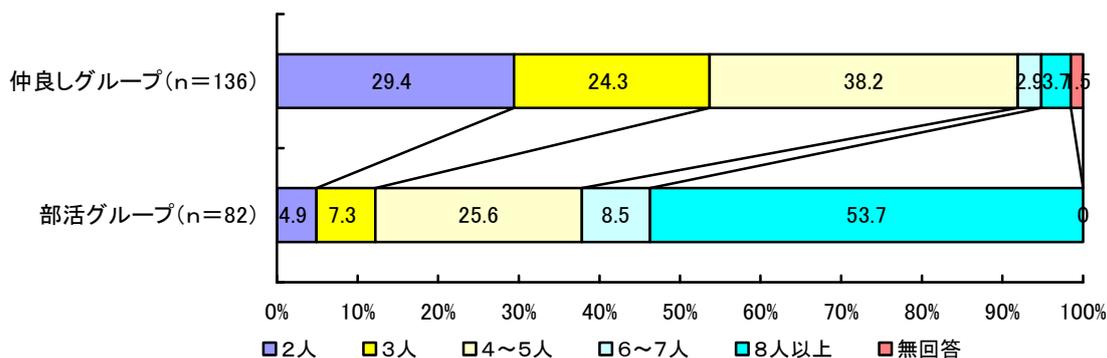
図2-3-1 グループ別のカラオケ頻度



カラオケの頻度を「仲良しグループ」と「部活（サークル含む）グループ」で行く場合を分けて比較をした。全体的に、仲良しグループで行く場合のほうの頻度が高い。両グループとも、「1ヶ月に1回」が一番多い結果となったが、「部活グループ」では「行ったことがない」の約28%に関しても多くを占める結果となった。

(2) 状況別のカラオケ利用人数

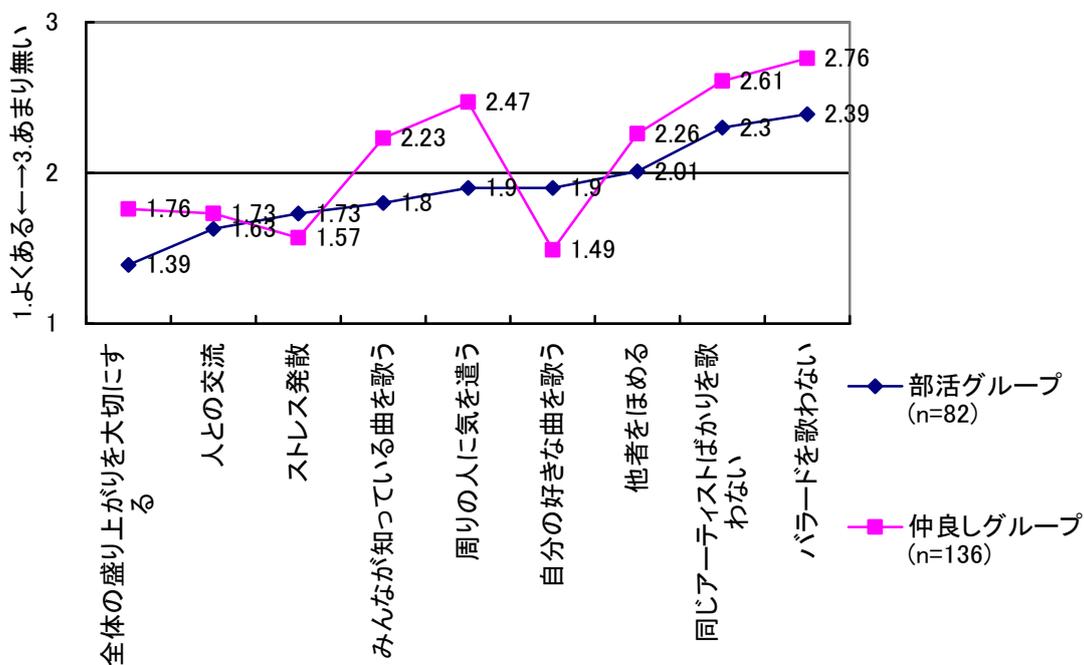
図2-3-2 グループ別のカラオケ人数



- ① 「仲良しグループ」のカラオケでは、比較的少人数の場合が多い。「2人」「3人」「4～5人」がほぼ全体を占めている。
- ② 「部活グループ」のカラオケでは、大人数の場合が圧倒的に多い。「8人以上」の大人数が過半数を占める結果となった。人数の違いから、カラオケ内でのメリットやコミュニケーションの仕方も変化してくると考えられる。

(2) 状況別・カラオケでの行動とメリット

図2-3-3 状況別・カラオケでの行動差



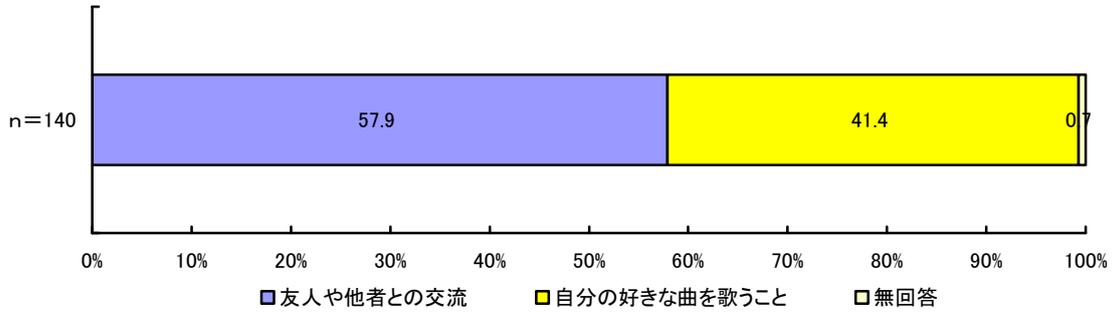
・両グループの差は下記である。

- ①全般に部活グループの方が仲良しグループよりもさまざまな気遣いが強い。
「全体の盛り上がり大切にす」「周りに気を遣う」「他者を褒める」「みんなの知っている曲を歌う」などの項目に大きな差がみられる。
- ②それに対し、仲良しグループのカラオケ場合、傾向が強いのは、「ストレス発散」「自分の好きな曲を歌う」である。全般に他者への気遣いが弱い結果となった。

2.4 カラオケに求めるメリットとコミュニケーション

(1) 「交流重視層」と「歌重視層」

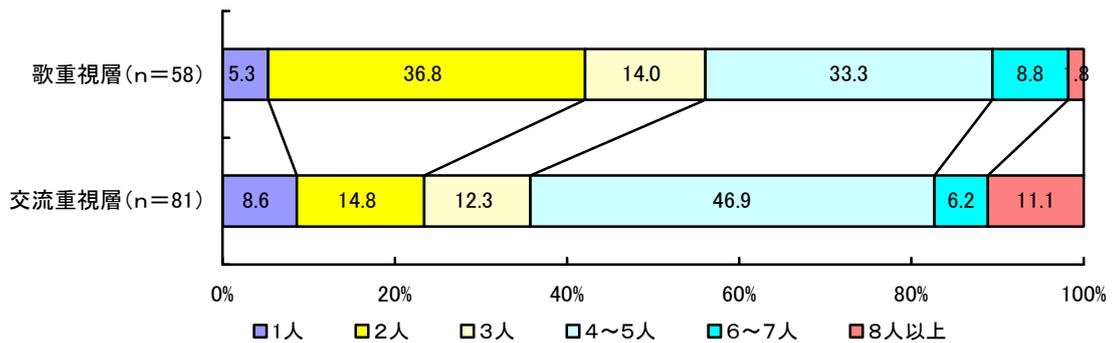
図2-4-1 「交流重視層」と「歌重視層」



カラオケで「友人や他者との交流」と「自分の好きな曲を歌うこと」ではどちらが重要か、という問いに対し、約58%が「友人や他者との交流」が重要と回答し、約41%が「自分の好きな曲を歌うこと」の方が重要と回答した。過半数以上が「友人や他者との交流」が大切だと答えていることから、個人の考え方で、カラオケの利用の仕方も変化してくることが考えられる。

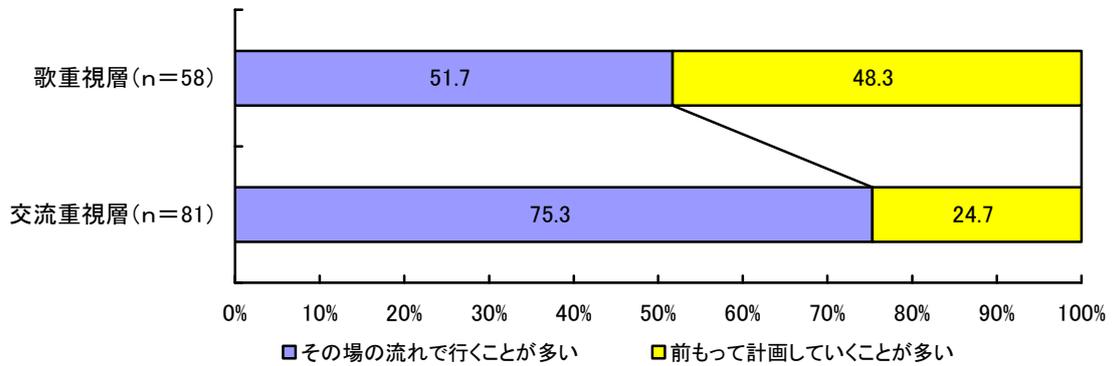
(2) 重視傾向とカラオケ状況

図2-4-2 重視傾向とカラオケ人数



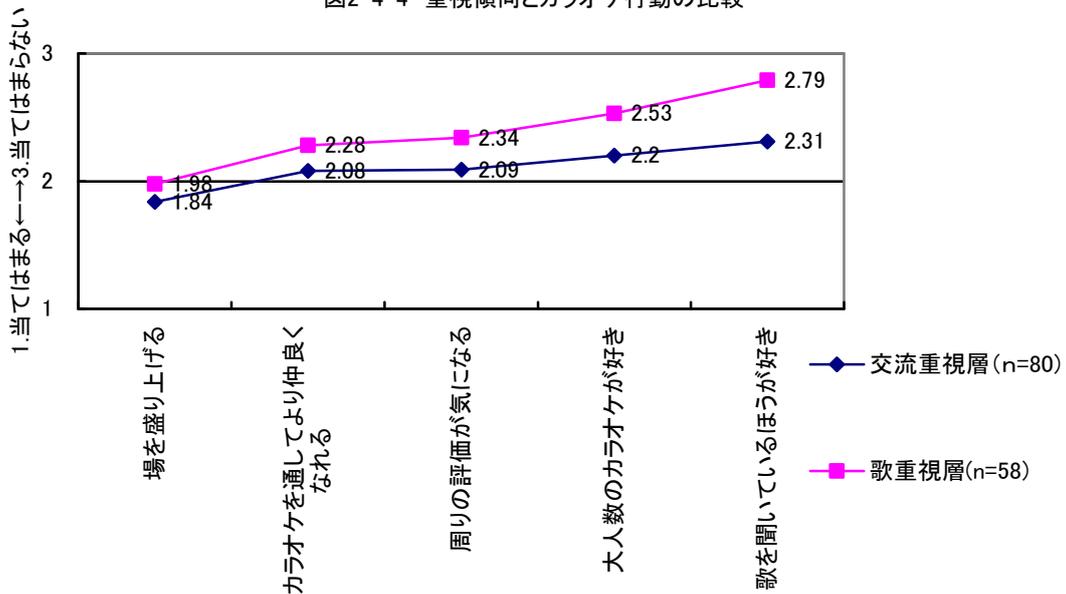
「自分の好きな歌を歌うこと」が重要だと答えた層は「2人」の約37%が一番多く、「友人や他者との交流」が重要と答えた層に比べ、少人数でのカラオケが多いことが分かった。「友人との交流」が重要と答えた層は「4~5人」の約47%が一番多数派であった。このように、カラオケに対する考え方によって、実際の人数も変化することが分かった。

図2-4-3 重視傾向と カラオケに行くときの流れ



「交流重視層」のほうが、「歌重視層」よりも“その場の流れ”を大切にすることがわかる。「交流重視層」はカラオケ内だけではなく、全体的な流れも重要視していることが分かる。「自分の好きな歌を歌う層」は少人数のカラオケが多いことから、コミュニケーションよりも自分が歌うことにメリットを感じていることが分かる。

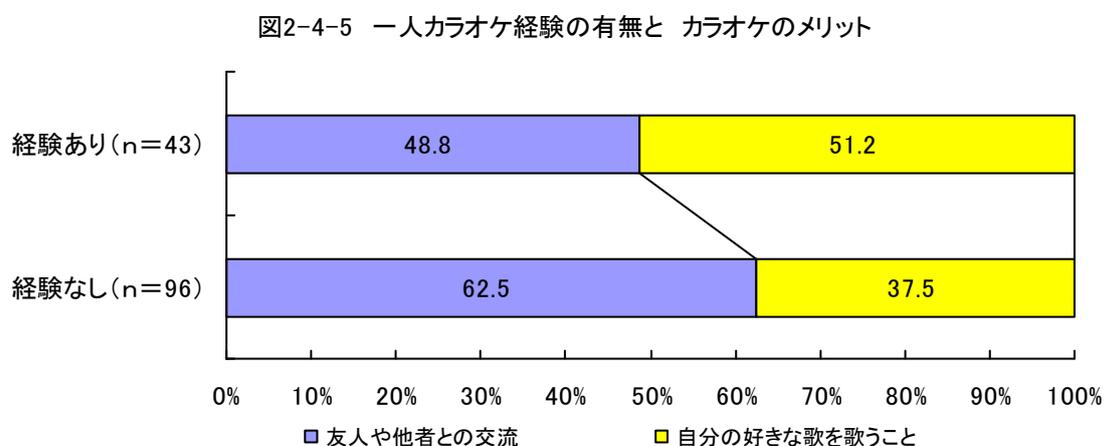
図2-4-4 重視傾向とカラオケ行動の比較



組織的な枠組みに限定しなくても、個人の考えでカラオケ利用のスタイルが異なる。

- ① 「交流重視層」は歌うことを重要とせず、全体の雰囲気重視していることがわかる。周りに気を遣い、周囲の評価を気にする傾向にあることから、自分だけでなく全員がカラオケを楽しむことに価値を置いていることが分かる。
- ② 「歌重視層」は他者との交流よりも、歌うことに一番のメリットを感じていることがわかる。

(1) 一人カラオケの経験有無とカラオケでの重要性の関係



一人カラオケ経験者と、そうでない層では、カラオケに求めるものに差があることが分かった。一人カラオケに行ったことのある人は「自分の好きな歌を歌うこと」の方にメリットを感じている人が多い。一方、一人カラオケに行ったことのない人は「友人や他者との交流」に重点を置いている人が過半数以上であった。

第3章 まとめと今後の課題

3.1 研究のまとめ

今回の調査では、状況別のカラオケスタイルについて調査した。仲良しグループで行くカラオケと、部活グループで行く場合のカラオケでは利用の仕方に差が見られた。また、個人の考え方の違いからも、カラオケ利用スタイルの変化が見られる結果となった。

まず、「学生のカラオケ利用状況」だが、全体的に皆よくカラオケを利用していることが分かった。カラオケが好きではないと回答した人は少なく、好きだと回答した人が圧倒的に多かった。カラオケに行く頻度は「1ヶ月に1回」という回答が一番多く定期的に必ずカラオケに行っている人が多かった。カラオケに行く相手は「大学の友人」が一番多く、やはり身近な大学の友人とカラオケに行く機会が多いことが分かった。人数は「4～5人」が一番多く、多すぎず少なすぎない人数であった。

「部活グループ」と「仲良しグループ」とのカラオケの比較でも、有意差が見られた。部活グループの場合には、周りに気を遣い、交流に重点を置いている人が多かった。一方、仲良しグループでのカラオケは、ストレス発散としてカラオケを楽しんでいる人が多かった。人数や頻度にも差がみられることから、メリットや行動にも差が出たと考えられる。

また、この調査の結果として重要な役割を果たしたのが「カラオケではどちらが重要だと思うか」という問いだ。「友人・他者との交流」「自分の好きな歌を歌うこと」の2通り選択肢を用意した。カラオケではやはり「歌うこと」がメインであるため「自分の好きな歌を歌うこと」に票が偏ることが予想されたが、実際は逆の結果となった。「友人や他者との交流」の方が重要だと回答した人が約58%と過半数を上回った。重視傾向の違いによって、カラオケ内でのコミュニケーションにも違いが出る結果となった。

また、一人カラオケ「経験者」「未経験者」のグループで分けた場合にも、カラオケに求めるメリットやコミュニケーションに有意差が現れた。一人カラオケ「経験者」は自分の好きな曲歌うことに重点を置いているが、「未経験者」は交流にメリットを置いていることが分かった。

3.2 今後の課題

今回の調査では、グループ別の有意差をはっきり見ることができた。だが、各グループの行動の違いについてもっと細かい分析が必要だった。コンセプトや仮説を考える際にもう少し熟考すべきだっただろう。次回は表面上のコミュニケーションをさらに詳しく調査・分析し、メリットにとどまらず、学生の根底にある意識をさらに調査することが今後の課題である。

参考文献リスト

・野口恒『カラオケ文化産業論』PHP 研究所

・前川洋一郎『カラオケ進化論』廣濟堂出版

『カラオケ』に関するアンケート

<http://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2008/080124/>

一人カラオケについて

<http://release.center.jp/2010/02/2501.html>

カラオケ店での行動あれこれ

<http://release.center.jp/2009/11/1201.html>

カラオケ BOX における若者行動と意識に関するマーケティングデータ

<http://www.asahi-bplan.com/marketing/data/0304.pdf>

動画サイトの利用について

<http://www.bunkyo.ac.jp/~mediares/2011/sya3/139matsuda.pdf> の問 1 9 付問 1 と 2

「社会調査Ⅲ」の授業のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

問1 あなたはカラオケが好きですか。(1つに○) n=140

1. 好きだ 57.9 2. やや好きだ 27.1 3. あまり好きでない 12.1 4. 好きではない 2.9

問2 どのくらいの頻度でカラオケに行きますか。(1つに○)n=140

1. 週に1回 4.3 2. 2週間に1回 12.9 3. 1ヶ月に1回 43.6
4. 3ヶ月に1回 24.3 5. 半年に1回 10.7 6. 1年に1回程度 3.6 7. 無回答 0.7

問3 あなたがカラオケによく行く人はどんな人ですか。(あてはまるものすべてに○) n=140

1. 大学の友人 60.7 2. サークルの仲間 34.3 3. 故郷の友人 41.4 4. バイト先の仲間 7.9
5. 学校外の友人 35.7 6. 家族、親戚 9.3 7. 恋人 15.0 8. その他 3.6

問4 カラオケは何人で行くことが多いですか。(1つに○)n=140

1. 1人 7.1 2. 2人 23.6 3. 3人 12.9
4. 4～5人 41.4 5. 6～7人 7.1 6. 8人以上 7.1 7. 無回答 0.7

問5 カラオケに行く理由で最も多いものを教えてください。(1つに○)n=140

1. 飲み会の2次会 7.9 2. 普段の遊び 65.0 3. つきあいで 5.7
4. ストレス発散 5.7 5. 暇つぶし 4.3 6. イベントの時 0.0
7. デート 0.7 8. 歌の練習 2.9 9. 終電を逃した時 6.4

問6 カラオケの採点機能を利用することが好きですか。(1つに○)n=140

1. 利用することが多い 24.3 2. 時々利用することがある 45.7 3. あまり利用しない 30.0

問7 あなたはカラオケの採点機能を利用することが好きですか。(1つに○)n=140

1. 好きだ 12.1 2. どちらかというが好きだ 47.9 3. あまり好きでない 29.3 4. 好きでない 10.7

問8 問7の理由を教えてください。(1つに○)n=140

1. 盛り上がるきっかけのため 30.0 2. 自分の歌のレベルを知るため 36.4
3. 友人に勧められて 1.4 4. 時間短縮のため 17.1 5. 歌が上手くないから 15.0

問9 カラオケで曲に合わせてダンスを踊ったことはありますか。(1つに○)n=140

1. ある 57.9 2. ない 42.1

問10 カラオケでは次のうちどちらが重要だと考えますか。(1つに○)n=140

1. 友人や他者との交流 57.9 2. 自分の好きな歌を歌うこと 41.4 3. 無回答 0.7

問11 同性だけで行くカラオケと異性（男女混合）で行くカラオケでは、選曲に変化はありますか。

(1つに○)n=140

1. 変わる 30.7 2. 変わらない 55.7 3. 異性（同性）とカラオケに行ったことがない 13.6

問12 カラオケに行く際、どちらの場合が多いですか。(1つに○)n=140

1. その場の流れで行くことが多い 65.7 2. 前もって計画していくことが多い 34.3

問13 あなたは大学のサークル・部活に所属していますか。(1つに○)n=140

1. 所属している 81.4 2. 所属していない 18.6 →問14（次のページ）へ

付問1 あなたが参加しているサークル・部活の種類を教えてください。(1つに○)n=114

1. 体育会団体 35.1 2. 文化会団体 53.5 3. 体育会・文化会の両方 11.4

付問2 あなたがサークルや部活に参加する頻度を教えてください。(1つに○)n=114

1. 毎日 9.6 2. 週に4～5回 7.0 3. 週に2～3回 26.3 4. 週に1回 41.2
5. 月に2回程度 7.0 6. 月に1回程度 1.8 7. 3ヶ月に1回 4.4 8. 半年に1回 2.6

付問3 サークルや部活のメンバーとカラオケに行く頻度を教えてください。(1つに○)n=114

1. 週に1回 0.0 2. 2週間に1回 6.1 3. 1ヶ月に1回 32.5 4. 3ヶ月に1回 18.4
5. 半年に1回 8.8 6. 1年に1回程度 6.1 7. 行ったことがない 28.1 →問14（次のページ）

付問4 サークルや部活のカラオケでは、何人で行くことが多いですか。(1つに○)n=82

1. 2人 4.9 2. 3人 7.3 3. 4～5人 25.6
4. 6～7人 8.5 5. 8人以上 53.7

付問5 サークルや部活のメンバーで行くカラオケでのあなたの行動を下記の項目ごとに1つだけ選んでください。(それぞれ1つずつ○)n=82

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
a. 全体の盛り上がりが大事だと思う	62.2	36.6	1.2	0.0
b. 周りの人に気を遣う	32.9	48.8	13.4	4.9
c. 自分の好きな曲を歌う	35.4	45.1	13.4	6.1
d. みんなが知っている曲を歌う	43.9	34.1	19.5	2.4
e. 同じアーティストばかりを歌わない	26.8	26.8	35.4	11.0
f. バラードを歌わない	22.0	28.0	39.0	11.0
g. 歌に関して、他者をよく褒める	24.4	53.7	18.3	3.7
h. 人との交流が楽しめる	45.1	46.3	8.5	0.0
i. ストレス発散になる	48.8	31.7	17.1	2.4

問14 仲の良い友人（サークルや部活単位の場合を除く）とカラオケに行く頻度を教えてください。

(1つに○)n=140

1. 週に1回 1.4	2. 2週間に1回 9.3	3. 1ヶ月に1回 36.4
4. 3ヶ月に1回 25.7	5. 半年に1回 15.7	6. 1年に1回程度 7.9
7. 行ったことがない（→問17へ） 2.9	8. 無回答 0.7	

問15 仲の良い友人（サークルや部活単位の場合を除く）とカラオケに行く場合、何人で行くことが多いですか。(1つに○)n=136

1. 2人 29.4	2. 3人 24.3	3. 4～5人 38.2
4. 6～7人 2.9	5. 8人以上 3.7	6. 無回答 1.5

問16 仲の良い友人（サークルや部活単位の場合を除く）で行くカラオケでのあなたの行動を下記の項目ごとに選んでください。(それぞれ1つずつ○)n=136

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
a. 全体の盛り上がりが大事だと思う	41.9	41.9	14.0	2.2	0
b. 周りの人に気を遣う	15.4	38.2	30.1	16.2	0
c. 自分の好きな曲を歌う	58.8	33.1	6.6	0.7	0.7
d. みんなが知っている曲を歌う	27.2	37.5	20.6	14.7	0
e. 同じアーティストばかりを歌わない	19.9	22.1	34.6	22.8	0.7
f. バラードを歌わない	11.8	23.5	40.4	23.5	0.7
g. 歌に関して、他者をよく褒める	18.4	48.5	20.6	11.8	0.7
h. 人との交流が楽しめる	47.1	35.3	15.4	2.2	0
i. ストレス発散になる	58.8	27.2	12.5	1.5	0

問17 あなたは一人でカラオケに行ったことがありますか。(1つに○)n=140

1. はい 31.4	2. いいえ →問18へ 68.6
------------	-------------------

付問1 ひとりカラオケの目的を教えてください。(1つに○)n=44

1. 練習 25.0	2. ストレス発散 34.1	3. 歌うことを楽しむ 25.0
4. マニアックな曲を歌う 9.1	5. その他 6.8	

問18 人前で歌うことに関して、あなたはどのように思いますか(それぞれ1つずつ○)n=140

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
a. 恥ずかしい	18.6	38.6	21.4	20.0	1.4
b. 自分を表現できる	12.9	37.1	36.4	12.1	1.4
c. 楽しい	45.0	37.9	11.4	4.3	1.4
d. 注目されるのが好きだ	15.7	19.3	45.0	18.6	1.4

問19 カラオケボックスでのあなたについてお聞きします。(それぞれ1つずつ○)n=140

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答
a. ほかの人が歌っている時も、場を盛り上げる	34.3	43.6	18.6	2.9	0.7
b. 大人数で行くカラオケが好きだ	23.6	32.1	30.7	12.9	0.7
c. 歌うより聴いているほうが好きだ	14.3	30.0	43.6	11.4	0.7
d. 周りの評価や反応が気になる	22.9	42.1	26.4	7.9	0.7
e. 歌が上手いとよく言われる	9.3	19.3	52.1	17.9	1.4
f. カラオケに行くことでより仲良くなれる	22.9	45.7	21.4	8.6	1.4

問20 あなたは現在アルバイトをしていますか。(1つに○)n=140

1. はい 70.0	2. いいえ 29.3	3. 無回答 0.7
------------	-------------	------------

F1. あなたの性別を教えてください。(1つに○)n=140

1. 男 40.7	2. 女 58.6	3. 無回答 0.7
-----------	-----------	------------

F2. あなたの学年を教えてください。(1つに○)n=140

1. 1年生 83.6	2. 2年生 14.3	3. 3年生 1.4	4. 4年生 0.0	5. 無回答 0.7
-------------	-------------	------------	------------	------------

F3. あなたの学科を教えてください。(1つに○)n=140

1. 広報学科 99.3	2. 経営情報学科 0.0	3. 情報システム学科 0.0
4. 国際観光学科 0.0	5. 国際理解学科 0.0	6. 管理栄養学科 0.0
7. 無回答 0.7		

F4. あなたの世帯状況を教えてください。(1つに○)n=140

1. 一人暮らし 60.0	2. 実家暮らし 35.0	3. その他 4.3	4. 無回答 0.7
---------------	---------------	------------	------------

調査は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。